きづがわ歴史探訪

南山城に位置するこの地は、旧石器時代から人が住み、山あいの地でありながら、木津川をとおして早くから朝鮮半島などと交流がありました。古墳時代を経て、飛鳥、藤原、平城などの都への入口として、都と各地を結ぶ接点の地として、その歴史と文化を育んできました。 平安時代、東大寺や興福寺などを領主とする荘園がおかれたため奈良や京都の文化の影響を大きく受け、神社仏閣も数多く建立されました。 鎌倉時代になると村人たちは有力者を中心にまとまり、石仏や十三重石塔、五輪塔を建て、石に仏を刻んで神仏の信仰が庶民に行き渡っていきました。15 世紀後半の応仁の乱は山城地域を戦場としましたが、地元の武士を中心に結束した人々は、軍勢を追い出し地域の自治を行いました。これが山城国一揆です。江戸時代、山城地域は豊かな農村地帯となり、木津川水運を利用して、農産物などを伏見・京都に積み出し、必需品を運び上げました。また、煎茶製法の改良によって、お茶の栽培が急速に広がり、幕末期以降、煎茶は欧米に輸出されるようになりました。明治時代になると鉄道や道路の交通網の整備が進み、しだいに木津川の水運の役割は小さくなりました。最近は、京都・大阪・奈良のベッドタウンとして人口が増加するとともに、関西文化学術研究都市の建設が進められ、大きな発展を遂げています。

時代区分	弥生……古墳……飛鳥……奈良……平安……鎌倉……室町……江戸……明治
木津	大畠遺跡（相楽山銅鐸） 上津遺跡 奈良山瓦窯跡 馬場南遺跡 安福寺・平重衡の墓 木津惣墓五輪塔 鹿背山城跡 鹿背山焼 大仏鉄道跡
加茂	砂原山古墳 岡田鴨神社 銭司遺跡 恭仁京 浄瑠璃寺 当尾石仏群 海住山寺五重塔 大井手用水路 岩船寺三重塔 大阪築城の残念石 デ・レーケ堰堤
山城	涌出宮遺跡 平尾城山古墳 椿井大塚山古墳 蟠満寺釈迦如来坐像 高麗寺跡 泉橋寺 以仁王墓（高倉神社） 神童寺 上狛環濠集落 狛弁才天社 小林家住宅 上狛の茶問屋

相楽山銅鐸　大畠遺跡　MAP B-3

（袈裟襷文銅鐸：けさだすきもんどうたく）（市指定文化財）

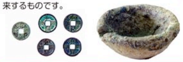
ニュータウン工事地内から出土した高さ 40.5cm の銅鐸で、僧侶の袈裟に似て、身を六区に区画することから六区画袈裟襷文銅鐸と呼ばれています。出土地近くの大畠遺跡では、弥生時代中期後半の竪穴式住居跡・方形周溝墓などが発見され、銅鐸を埋納した集落と判明しています。

高麗寺跡（国指定史跡）　MAP C-3

7世紀初頭（飛鳥時代）に創建された国内最古の寺院跡のひとつで、高句麗からの渡来氏族狛（高麗）氏の氏寺として創建されたと考えられています。「日本霊異記（にほんりょういき）」には天平年中(奈良時代)に存在したことが記され、伽藍（がらん）は木津川を見下ろす台地上に南面して、西に金堂、東に塔を持つ法起寺式の配置となります。

銭司遺跡（府指定史跡）　MAP C-1

我が国の古い貨幣として知られている「和同開珎」(わどうかいちん)を鋳造していたところです。この場所からは、鞴の羽口（ふいごのはぐち）や坩堝（るつぼ）のほか銅銭だけでなく銀銭も出土しています。銭司（ぜず）の地名は、この鋳銭司（造幣局）に由来するものです。



椿井大塚山古墳

高麗寺跡

音如ヶ谷瓦窯跡

上津遺跡

市坂瓦窯跡

椿井大塚山古墳（国指定史跡）　MAP B-3

古墳時代前期（三世紀後半）のなかでも最古に位置づけられる代表的な前方後円墳です。昭和 28年、古墳の後円部を南北に走る国鉄奈良線（現在の JR 奈良線）の法面拡幅工事が行われた際に、竪穴式石室が発見されました。発掘調査で、石室内から、邪馬台国の女王卑弥呼の鏡とも呼ばれる「三角縁神獣鏡（さんかくぶちしんじゅうきょう）」三十数面を含む四十面近い銅鏡や多くの副葬品が出土し、全国的に大きな注目を集めました。

上津遺跡　MAP C-1

奈良時代の木津川（当時は泉川）の南岸のこの地には「泉津」（いずみつ）と呼ばれる港が開かれ、平城宮や南都諸大寺の出先機関「木屋所」（こやしょ）が設置されていました。昭和 51 年の発掘調査では、160m以上も東西に延びる溝、更に並列する柵、建物の跡や多数の遺物が出土しています。

奈良山瓦窯跡（国指定史跡）　MAP B・C-3 D-2・3

音如ヶ谷瓦窯跡・鹿背山瓦窯跡・市坂瓦窯跡・梅谷瓦窯跡・歌姫瓦窯跡（奈良市）

今から 1300 年の昔、平城遷都が決定し、都近郊には様々な工房が設けられました。平城宮の宮殿や役所に葺かれた瓦は、数百万枚ともいわれています。京都と奈良の境にある奈良山丘陵は瓦に必要な粘土や燃料に恵まれており、瓦の一大拠点となりました。そのうち音如ヶ谷瓦窯跡は、1979 年の発掘調査によって4 基の瓦窯跡と数棟の掘立柱建物が検出され、瓦の文様から「法華寺阿弥陀浄土院」創建瓦を焼いた窯であることが判りました。木津川市では鹿背山瓦窯跡、市坂瓦窯跡、梅谷瓦窯跡と併せ4ヶ所の瓦窯跡が、歌姫瓦窯跡(奈良市)を含め「奈良山瓦窯跡」として国の史跡に指定されています。

当尾の石仏　MAP B・C-4

（当尾磨崖仏（まがいぶつ）文化財環境保全地区）

「美しい日本の歴史的風土 100 選」

市内東南部の当尾地区には、多くの石仏や石塔があることで知られています。特に平安時代から修行僧の庵室や行場が設けられていた当尾には、浄瑠璃寺・岩船寺の界隈に、鎌倉時代後期から室町時代にかけて、行き交う人々のために多くの磨崖仏が造立されました。繊細で芸術性の高い石仏が多く点在し、石仏の里として訪れる人が絶えません。

大井手用水路　MAP B-1

貞応元年（1222）海住山寺第二世慈心上人は、瓶原の住民が水不足で苦労しているのをみて、和束川から水を引く大井手用水路の建設を計画し、二十余年の歳月を費やして完成させました。その延長は 6,759mに及んでおり、このおかげで米の収穫量が大幅に増え、今も瓶原一帯を潤しています。

以仁王墓（高倉神社）　MAP B-1

平重衡の供養塔　MAP C-1

高倉神社は、平安時代末期の後白河法皇の第二皇子以仁王（もちひとおう）を祀り、隣接して以仁王の御墓があります。「平家物語」によると、平家に追われた以仁王は、南都の興福寺をたよって都から落ちる途中、この地「光明山の鳥居の前」で流れ矢に当たって落命したとあります。平重衡は、平清盛の五男で、平氏に従わない勢力の拠点である東大寺・興福寺を焼き討ちにしたことで有名です。「一の谷の合戦」に敗れ捕虜となり、焼き討ちにあったお寺の衆徒の要求で奈良に送られ木津川原で斬首されました。

わらい仏

大門磨崖仏

大井手用水路

安福寺哀堂「平重衡」終焉の地

上狛環濠集落（市指定史跡）　MAP B-3

上狛環濠集落は、通称「大里」と呼ばれ、長径 600m、短径300mの周囲を堀に囲まれ、山城国一揆の舞台となった村の一つとして村人たちの生活や村を治めた国人狛氏に関係する遺跡と文化財が残り、惣村の風景を想像することができます。

木津惣墓五輪塔（重要文化財）　MAP C-2

鎌倉時代、正応 5 年（1292）に建立された、高さ 3.6m、花崗岩製の五輪塔です。惣墓とは、一般大衆のあいだに個人墓が普及していなかった時代の葬礼儀式の一形態で、いわゆる共同墓地という意味をもっており、主に大和・山城地方に分布しています。建立年代の判る五輪塔として貴重なもので重要文化財となっています。

木津惣墓五輪塔

大阪城の残念石　MAP A-2

加茂盆地の西側、大野山の東斜面には、何カ所かに斜面の岩盤から切り出された大きな石が残っています。また、大野の勝手神社下の木津川にも、2～4m ほどの花崗岩の切石がたくさん点在しています。これらは、藤堂高虎によって切り出され、徳川氏の大阪城復興に用いられた石材の一部です。大阪城へ運ばれなかった石材は、残念石と呼ばれ現在も多くが河原に残されたままです。

上狛環濠集落

大仏鉄道遺構（赤橋）　MAP D-2

約100 年前に開通して、わずか 9 年余りで廃止された鉄道がありました。「大仏鉄道」です。かつての路線跡に鉄道構造物やランプ小屋が残っています。

上狛の茶問屋街　MAP B-3・4

近郊では江戸時代から優れた品質の茶の栽培と製茶が盛んで、幕末には木津川の水運を利用して神戸に出荷し、世界に輸出されていました。木津川の浜に近い山城町上狛南部には製茶工場や茶問屋が集積し、最盛期には 120 軒を数えたといわれています。現在も約 40 軒の茶問屋が軒を連ね、「茶問屋ストリート」と呼ばれる町並みが往時の雰囲気を残しています。

不動川砂防歴史公園

（デ・レーケ堰堤）（府指定文化財）　MAP C-1

明治 6 年に政府の招きにより来日したオランダ人工師ヨハネス・デ・レーケは日本の治水事業の発展の基礎を築いた人物です。なかでも不動川上流に数多く築かれた石積の砂防堰堤は日本で最初に築かれたもので、100 年以上経った現在もその姿を残しています。

ランプ小屋

大仏鉄道遺構（赤橋）

大阪築城残念石

茶問屋街

不動川砂防歴史公園